

# 水の事故を予防し 楽しく夏を過ごしましょう

「水」は生物が生きるために必要な物質であり、私たちの生活において様々な場面で活用されている身近な存在ですが、その反面、水による事故も大変多く発生しています。とくに海・河川・プールなど、水辺での遊びやスポーツをする機会が増える夏期は水難事故が多く発生しています。

## 令和4年夏期（7～8月）の水難事故

全国の発生件数（人数）：459件（638人）

うち死者・行方不明者：228人 ⇒ 3人に1人は亡くなっている

このうち中学生以下は

中学生以下の発生件数（人数）：50件（120人） ⇒ 5人に1人は中学生以下

うち死者・行方不明者：9人

〈参照：警察庁 令和4年夏期における水難の概況〉

## ～子供の死亡事故事例～

- 令和4年7月25日、滋賀県大津市にある琵琶湖に、20人程の家族で遊泳に来ていた小学校2年生の男児(8歳)がシュノーケルを使い遊んでいたところ溺れてしまい、亡くなりました。
- 令和5年4月22日、富山県高岡市内のプールで、水泳教室に参加していた男児(5歳)がプールの底に沈んでいるところを発見され、その後死亡が確認されました。
- 令和5年4月16日、安曇野市の犀川で男子中学生(12歳)が、友人3人と釣りや川遊びをしていたところ、川に転落してしまい病院へ搬送されましたが、翌日亡くなりました。



# 水難事故防止のポイント



## ○危険な場所を把握し近づかない

- ・ 転落のおそれのある場所
- ・ 水温の変化や水流の激しい場所
- ・ 深みのある場所
- ・ 海であれば岸から沖への海水の流れ（離岸流）などが発生する場所



## ○的確な状況判断

- ・ 雨などで河川が増水するおそれがあるときは水辺に近づかない
- ・ 体調が悪いとき、飲酒したときは泳がない
- ・ 事前に天気予報を確認し、天気の変化に注意する



## ○事前の十分な準備

- ・ 水辺に行くときは必ずライフジャケットを着用する（着用していないと生存率が半分になってしまいます）〈参考：日本財団「水辺の事故の現状と分析」〉その際は、自身の体にあったサイズのものを着る（子供用もあります）
- ・ スマートフォン・携帯電話を防水パックに入れ、緊急時にすぐに連絡ができるようにする

## ○子供の水難事故防止

- ・ 水遊び等をするときは必ず保護者が付き添い、絶対に目を離さない（「子供は静かにおぼれていく」と言われています）
- ・ すべりやすいプール周辺などで走らない
- ・ むやみな飛びこみをしない



**!** プールや海だけでなく、家の中にも危険はひそんでいます

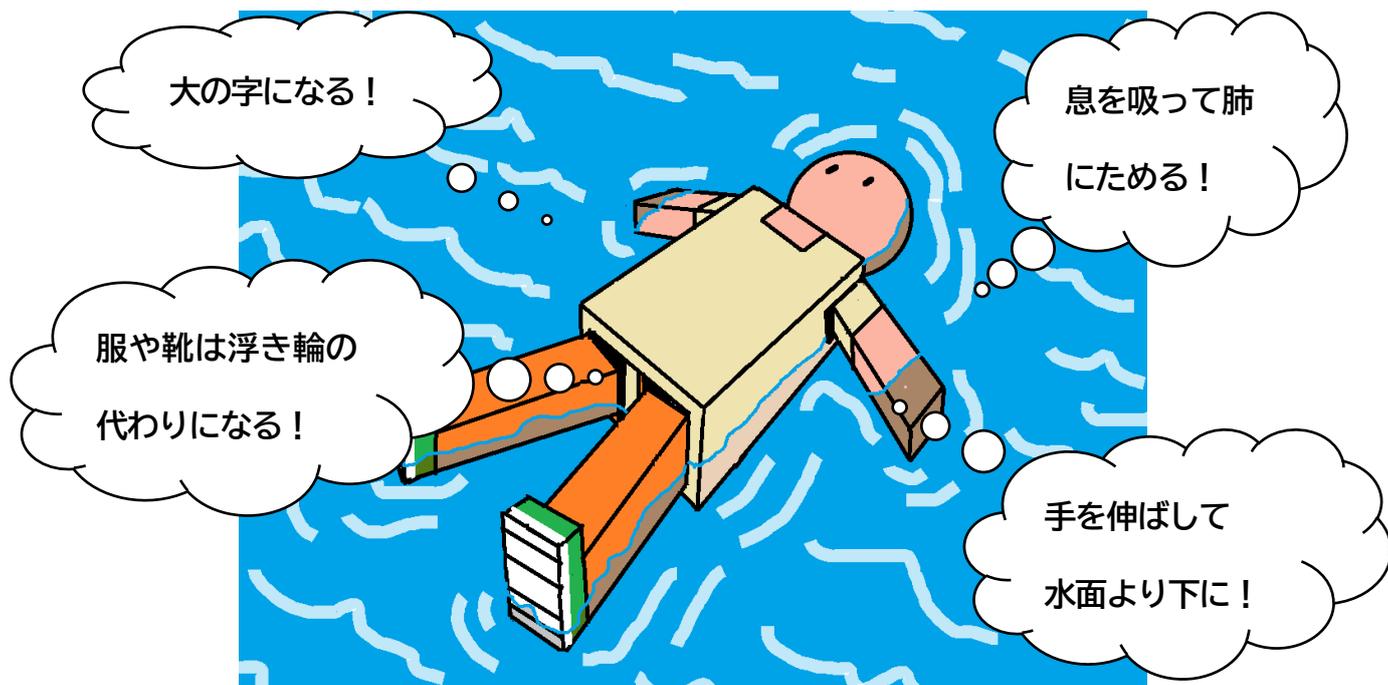
小さい子供は口と鼻が塞がってしまえば、水深が数cmの水でも溺れてしまいますので注意してください。



## 事故にあった時の対処法を 学んでおきましょう

○衣服を着たまま水中でおぼれた場合「**浮いて待て!**」

仰向けで力を抜いて大の字になり救助を待ちましょう



○もしもの時のために

長野市消防局では、止血といった応急手当やAEDの使用法を含む心肺蘇生法などを学べる救命講習会を開催しています。講習内容や開催日、場所等は「長野市ホームページ」や「広報ながの」にてご確認ください。最寄りの消防署までお問い合わせください。申込みは先着順となります。

《記事作成》長野市消防局 鶴賀消防署 若槻分署